

# 幹細胞再生医療の意外な副産物

文 長也寸志

text by Yasushi Cho

## “再生”を促す“幹細胞” 6

最近、化粧品のコスメや女性誌でも「ヒト幹細胞由来」を謳う商品が増えてきました。化粧品に配合されている成分と実際の治療の間には天と地ほどの差があるのですが、これもまた、幹細胞再生医療が広く知られ始めていることの証左であると言えるでしょう。

当診療所が厚生労働省から「第二種再生医療等提供計画番号」を取得している幹細胞再生医療は、ここ数年で着々と症例を増やしています。すると、数が増えるにつれて不思議なデータが上がってくるようになりました。本来の治療の目的とは別の疾患、部位にも、効果を見せることが分かったのです。この嬉しい副産物によって想像以上の回復を見せてくださる患者様は、当診療所にも数多くいらっしゃいます。

例えば、糖尿病の治療をされた70代の男性Aさんは、大腿骨を骨折されました。大腿骨は過去にガンで放射線治療を行っていた部位であり、周辺

の骨の組織が脆くなってしまっていたのだそうです。度重なる放射線治療により骨の細胞も弱っており、骨自体が再生してくつづくことは難しいと言われていたAさん。整形外科の医師からは「家を車椅子用に改装した方がよい」とアドバイスされ、実際にリフォームも進められていたそうなのですが……。そう、おわかりでしょうか。糖尿病のために幹細胞再生治療を受けたAさんは、何と骨折も完治させてしまったのです！治療を受けたから治ったのか、その方ご自身の生命力が強かったのか。それは、現時点では不明です。しかし、このような事例は他にも数え切れず、幹細胞を自己投与するという治療の効果が改めて見直されています。

実は当診療所でも、上記にまつわる新しい挑戦を始めています。ある大学の研究機関と連携し、幹細胞再生治療の臨床データを集計・分析。信頼できる結果を基に発表する準備を行っているのです。これは、医療の未来を本当

に変えてしまいかもしれない。私はそんなふうに静かに興奮しているのですが、果たしてどうなるでしょうか。この場で近い将来、良いお知らせができたらいいなと思っているところです。

### Profile

医療法人社団 友志会 理事長  
1987年3月 福岡歯科大学 卒業  
1987年4月 福岡歯科大学病院保存科 入局  
1989年6月 長齒科医院 開設  
1994年8月 新地八口一齒科診療所 開設  
1996年 医療法人社団友志会 設立  
2007年8月 翼八口一齒科・内科診療所 開設

